

# アジアの友

The Asia-no Tomo

8-9

AUGUST-SEPTEMBER

2015

## 百賢アジア研究院 2015 サマー・プログラム (第1回) 開催 修了式に参加して





## 第三回卓球大会を開催

アジア文化会館では7月31日（金）第三回卓球大会の決勝戦が行われました。今年は男子16名、女子3名が参加して、トーナメント戦を行いました。男子は昨年準優勝だった車紅昇さん（中国）が今年はずいに優勝を果たしました。女子はTEH JUN XUAN（マレーシア）さんが優勝しました。トロフィーには優勝者の名前が刻まれます！



## 第三回カラオケ大会を開催



アジア文化会館では7月31日（金）第三回カラオケ大会を開催しました。今年は16名とたくさんの学生が個性豊かな歌声を披露してくれました。NORAKOON INTHIDAさん（タイ）が優勝し、カラオケに参加された小木管理理事長からトロフィーと賞品が手渡されました。卒業生の音響支援とカラオケ参加もあり、大いに盛り上がりました。今年からトロフィーに優勝者の名前が刻まれます！

# アジアの友

2015年8・9月号 第516号

## 目次

	巻頭
2	百賢アジア研究院 2015 サマー・プログラム (第1回) 開催 修了式に参加して
	私の意見私の体験
12	「大切なのは自分の責任で進むこと」 黄 国隆 ～マレーシア
	インタビュー
16	<だから日本に留学しました！> カセムウィロートスックジャイ パンパボン (ムック) さん ～タイ
	コラム
20	泰日工業大学 奮闘記 (第13回) 「体験学習の大切さ」 中山 貴子
	ABK is My Home
22	関連イベント&懐かしの来館者
	留学生キッチン
24	④ 帆立と春雨の中華風蒸し 花巻添え 講師：明 慧
27	留学生関連ニュース
28	Event & Festival
29	知友会通信
32	MEMBERS

### <表紙写真>

BXAI 創設者 曹其鏞氏 (中央) と今年 BXAI サマープログラムを実施した浙江大学代表と来年実施する早稲田大学代表

# 百賢アジア研究院 2015 サマー・プログラム (第1回) 開催 修了式に参加して

2015年8月3日(月)～2015年8月21日(金)

於、中国・浙江省杭州市・浙江大学紫金港キャンパス

2015年8月3日から8月21日までの3週間に渡り、中国浙江省杭州市の浙江大学紫金港キャンパスにおいて、百賢アジア研究院 BXAI: Bai Xian Asia Institute (香港) (注1) (以下、BXAI) が、浙江大学の全面的な協力を得て第1回 BXAI サマー・プログラムを開催した。招待を受け、サマー・プログラムの修了式に合わせプログラムに参加してきたので以下報告する。(当協会常務理事 布施)

## はじめに BXAI と AFLSP について

BXAI については本誌でもこれまでも何度か取り上げているように、1957 年に来日し、日本人学生、留学生、海外からの研修生の共同生活寮として 1960 年に竣工した当協会運営のアジア文化会館 (ABK) の第 1 期生として入寮し、62 年まで暮らし東京大学で機械工学を学んだ香港の曹其鏞氏が、尖閣諸島沖の漁船追突事件をきっかけに日中関係が悪化した 2010 年に、ABK での体験を生かしたいと中国を代表する 5 大学 (北京大学、精華大学、上海交通大学、復旦大学、浙江大学) に、中日の学生が共に暮らす学生寮の設置を提案し、各大学に 2000 万元 (約 3 億円: 当時換算) を寄附して 5 大学の『中日青年交流センター』の設立に着手しました。2012 年 9 月には北京大学が開所し、既

に中日の学生が 2 人 1 組で暮している。その他の浙江大学 (注2)、上海交通大学、復旦大学、精華大学にもすでに同様な共同生活寮が完成している。各寮の部屋は寝室 2 つと共有スペース、トイレ、シャワーを備え、中国人学生と日本人留学生が 2 人一組で暮らすよう作られている。その後、センターの名称は、『アジア青年センター Asia Youth Center: AYC』と名称を変更し、広くアジアからの留学生に門戸を開いている。

曹其鏞氏は、『中日青年交流センター』を推進している過程でビジョンが膨らみ、2013 年に『アジア次世代指導者奨学金プログラム AFLSP: Asian Feature Leaders Scholarship Program』 (注3) (以下、AFLSP) の計画を立て、私財一億ドル (約 100 億円: 当時換算) を投じ、香港に『Bai Xian (百賢) 教育財団』を家族で創設す

る。そして AFLSP の奨学金支給を通じて、「将来のアジアを担うリーダーを育成する活動」を実施するため非営利団体の『百賢アジア研究院：Bai Xian Asia Institute (BXAI)』を『Bai Xian (百賢) 教育財団』の資金を得て、2014年1月、香港に設立する。そして、2014年5月、中国・北京で、BXAIの関係者、提携を呼びかけた関係大学、マスコミ等を集め AFLSP のプレス・リリースが行われ、2014年9月から奨学金の支給が開始される。今後、BXAI は AFLSP を推進・管理し、提携大学・日本百賢アジア研究院 (注4) と連携し発展させてゆく役割を担ってゆく。

BXAI は、現在、東アジアの16大学(アンカー大学6校、パーティシペイティング大学10校) (注5) と契約、提携を結び、自国以外のアジアの国で学ぼうとするアジアの大学生で BXAI と提携する大学の学部、MBA、修士、博士課程で学位を取得するために在籍する優れた学生に、年間105人まで、最長2年間の奨学金を授与する。2014年9月に最初の奨学金を中国と日本の5大学に在籍する学部並びに大学院の留学生55名に授与した。

なお、AFLSP 奨学生は、留学先大学の学生と共に生活することを課され、また、BXAI の通年プログラムに参加し、かつサマー・プログラムは全員参加が義務付けられる。



浙江大学紫金港キャンパス内風景写真

## 第1回 BXAI サマー・プログラム

さて、BXAI は、AFLSP 奨学生の最も重要なイベントとしてサマー・プログラムを位置づけている。創設者の曹基鏞氏の留学時代の経験 (注6) からインスパイアされ、奨学生全員が一堂に集まり、共に生活し、学び、論じ、スポーツ、旅行、文化活動等を共に楽しみ、これらの活動を通じて奨学生が、相互理解を深め、異文化交流等を通して、友情を培う場として、サマー・プログラムを立ち上げている。そして、この夏、その第1回目『2015 BXAI Summer Program』(以降、サマー・プログラム) が8月3日から21日の3週間に渡り BXAI のアンカー大学の浙江大学の協力のもと中国浙江省杭州市の浙江大学紫金港キャンパスで開催された。

参加者に配布された資料によると、全プログラム参加の受講生 (注7) は82名で、



曹其鏞氏の寄付で造られた浙江大学内の  
アジア青年交流センター（AYC）

13の国・地域から集まり、その内訳は中国44、日本18、韓国6、台湾2、その他12（タイ3、インド2、アフガニスタン1、イラン1、カザフスタン1、カンボジア1、バングラデシュ1、ビルマ1、ラオス1）となっている。参加大学は中国と日本の提携8大学からあり、参加者は開催地の浙江大学30名、京都大学15名、香港科学技術大学9名、一橋大学8名、早稲田大学7名、北京大学5名、上海交通大学5名、精華大学3名となっている。また、参加者82名のうち奨学生は50名、奨学生のバディ（Buddy）19名、そして、中国の5大学に建てた共同学生寮『アジア青年センター』から特別奨学生として13名（全て日本人学生）が参加している。（注8）

なお、奨学生のサマー・プログラム参加のための全費用はBXAIより支給され、82名の参加学生は9つのグループに分けられ諸活動を行った。学生は奨学生の共通言語

は英語で、従って、全てのプログラムは、英語で行われた。日曜日を除き、午前中は9時から学術セッションの講義が始まり、受講、質疑、ディスカッション、発表等、今回は7つのテーマ（注9）が設定され、各テーマ1～3日かけて実施された。講師には、提携大学等の中日の著名な先生方が当たり、講義、モデレーター、コメンテーターとして参加した。午後は、企業家等の特別講義やワークショップ、チームワーク作り等の研修、見学等が組ま

れ、より実用的な授業が組まれている。更に夜には、毎晩スポーツや映画鑑賞等用意され、9時半に散会となっている。また、土曜には、杭州市近郊の風光明媚な観光地、繁華街等に出かけている。盛りだくさんの素晴らしい刺激的なプログラムや楽しいプログラムが終日提供されている。奨学生は海外経験のある優秀な学生たちとはいえ、13か国・地域からの参加者と終始行動をともし、初めての経験も多々予測され、授業も全て英語で、中には疲れがたまった学生もいたのではないかと推察する。しかし、まだ十分エネルギーを蓄え、最終日の最後授業でも積極的に発言していた学生もいた。なお、今回のサマー・プログラムには協力者として、学術セッションで大学教授14名、それ以外のスピーカーは22名に上り、日本からも10名ほど講義等に加わっている。

今回のBXAIサマー・プログラムは、初回としては十分成果を上げ修了したと思



修了式来賓挨拶（董建華氏）

う。サマー・プログラムの期間中に学生たちから上がってきているレポート等の調査報告が楽しみだ。BXAI サマー・プログラムは、今後回を追うごとにより充実したものに育ってゆき、ここに参加する奨学生は他では経験できない貴重な機会が提供され、年々ここで経験を積む若者が数を増し、曹基鏞氏の考える「将来のアジアを担うリーダー」が自ずと育ってゆくものと大いに期待される。

そして、8月21日のプログラム最終日の午後は、「2050年の世界—あなたの夢は何ですか?」というテーマで浙江大学教授の講義で全授業が完了した。奨学生はじめ参加学生は、宿泊先の共同学生寮浙江大学『アジア青年センター』に戻り、夕方から始まる修了式のためにドレスアップをして修了式会場のある大学の敷地内のホテルに現れ、互いに最後の記念撮影を撮って

いた。修了式には董建華氏（初代香港特別行政区行政長官）、徐匡迪氏（元中国工程院長、元上海市長）等の元国家指導者、浙江省党委書記、浙江大学のトップ（金徳水党委書記）、浙江大学副学長など著名な方が参加し、修了式で祝辞を述べられた。日本からはBXAI 諮問委員の田波三菱東京UFJ銀行顧問、日本百賢アジア研究院監事の吉川三菱東京UFJ銀行専務

執行役員、平澤丸紅（上海）董事長他が出席、大学からは早稲田大学・黒田国際部長大学院教授以下来年のサマー・プログラムの担当教授2名、慶応義塾大学・友岡国際センター長商学部教授以下担当課より2名が参加した。修了式では基調講演も用意され、元マイクロソフト幹部のMr. John Wood（注10）が自身で立ち上げ実績を上げているNPO活動のプレゼンテーションが行われ、これから社会に飛び立つ若者に向けた意義



卒業証書授与式（9クラス毎に壇上に上ったの授与式）



曹其鏞氏を介して今年開催した浙江大学から来年開催する早稲田大学への引継ぎ式が行われた

あるメッセージが発信された。なお、学生側から8名の代表が、サマー・プログラムの経験と成果を、それぞれ代わる代わる寸劇風に語り、会場の関係者にサマー・プログラムの一端を披露すると同時に、今後の抱負を語った。そして、Prof.WooChai-Wei (BXAI 理事・学術委員会議長・院長、香港科学技術大学創設学長) から9クラスの受講生一人一人に修了証書が手渡された。

そして、最後に、BXAI 創設者・名誉会長の曹其鏞氏、今年のサマー・プログラムの開催地浙江大学から副学長、来年のサマー・プログラムの開催校を代表して早稲田大学の黒田大学院教授・国際部長が壇上に上がり、BXAI の曹氏を介して、浙江大学から早稲田大学へのサマー・プログラムの引継ぎ式が行われた。

実は、早稲田大学の黒田教授は、学生時代にアジア文化会館 (ABK) に3年間 (1986

年から89年) 暮らしていた。時期はだいぶ隔たっているが、かつて曹其鏞氏と黒田教授は共に ABK に暮らしたことがあり、そのお二人が、第1回 BXAI サマー・プログラムの壇上に不思議な巡り合わせで、曹氏の事業にその協力推進者として黒田教授が参加し、目の前の壇上にお二人が並んでいるのを見ながら、関係者として一人感激していた。

閉会の辞は、RonnaChao BXAI 執行委員会議長・最高経営責任者 (CEO) で、修了式を終え、3週間という長丁場の集中プログラムに幕が下ろされた。

修了式の後にはギャラ・ディナー (打上げ晩餐会) が開催され、ここでも奨学生は

RONNA  
BXAI CEOの閉会の辞





修了式参加者全員で

サマー・プログラム期間にスポーツや文化活動で習得した太極拳や合唱等を来賓に披露し、最後の晩餐と来賓との会話、そしてそれぞれ別れを惜しんでいた。

Ronnaさんはじめ第1回サマー・プログラムを企画、推進してきたCEO オフィス・チームの皆様、ご苦労様でした。

翌23日には、浙江大学生を残し、参加者全員が浙江大学を後にした。修了式の晩は徹夜で語り、飲み明かした奨学生も見受

けられたが、朝には名残を惜しみながらサマー・プログラムでのたくさんの貴重な経験と思い出を背負い、それぞれの所属大学に戻って行った。

サマー・プログラムに参加した一人一人の今後の成長と変化を楽しみにしたい。

曹基鏞氏の企画した夢、AFLSPの目指す、将来のアジアを担うリーダーに一人でも多くのAFLSP奨学生になることを願いつつ私も浙江大学を後にした。

(注1) 百賢アジア研究 (BXAI: Bai Xian Asia Institute) HP : <http://www.bxai.org/en-us/who-we-are>

(注2) 浙江大学：中国で最も早く創立された四大学府の一つであり、吉林大学に次ぐ中国最大規模の総合大学である。1952年の中国の教育改

革で、いくつかの単科大学に分かれたが、1998年、浙江農業大学、浙江医科大学、杭州大学を吸収合併した。清華大学、北京大学に次ぎ、上海交通大学、復旦大学、南京大学等に並ぶ上位の大学とされている。キャンパスは、玉泉、湖濱、之江、紫金港など6つあり、あわせて5,330,000

平方メートルの敷地面積および、2,008,000 平方メートルのフロア面積を持つ。学生数は大学院合わせ 4 万人以上で、規模は中国第 2 位である。

(注3) アジア次世代指導者奨学金プログラム (AFLSP: Asian Feature Leaders Scholarship Program) HP : <http://bxai.org/en-us/programs-and-scholarships>

(注4) 日本百賢アジア研究院

HP : <http://baixianjapan.com/>

(注5) 現在、BXAI の AFLSP ネットワークは、中国、日本、韓国の 9 都市にあるアンカー大学 6 校とパーティシペイティング大学 10 校で構成。アンカー大学：京都大学、一橋大学、早稲田大学、香港科学技術大学、北京大学、浙江大学（以上、6 校）。パーティシペイティング大学；慶応大学、九州大学、東京大学、復旦大学、上海交通大学、精華大学、香港大学、香港中文大学、台湾大学、ソウル大学（以上、10 校）。アンカー大学とは 3 年間の奨学金契約に基づき各大学には毎年 10 ～ 20 名の奨学金を割り当て、各大学は独自の選考

プロセスで実施している。奨学金と BXAI が行うサマー・プログラム等の費用は BXAI がモニター結果等をチェックし、マネージメントしている。早稲田大学と北京大学、台湾大学、復旦大学間のダブルディグリー交換プログラム及び一橋大学、北京大学、ソウル大学間のダブルディグリー MBA プログラムを支援している。他には、北京大学燕京学堂の中国研究修士課程に 1 ～ 2 年間、浙江大学の行政学修士課程に 2 年間、香港科学技術大学修士課程に 2 年間、京都大学修士、博士課程に 2 年間の支援を行っている。なお、パーティシペイティング大学（提携校）には合計 25 名の奨学金が用意されており、各大学は、最大 10 名の候補者を BXAI の選考委員会へ推薦することができるが、最終選考は選考委員会に委ねられている。現在は、10 校が BXAI と提携を結んでいる。

(注6) BXAI2105 サマー・プログラム開会式の曹基鏞氏挨拶の注参照

(注7) BXAI 2105 サマー・プログラム 全プログラム参加学生数と国別、大学別区分

	参加者数	浙江 大学	京都 大学	香港 科学 技術 大学	一橋 大学	早稲田 大学	北京 大学	上海 交通 大学	精華 大学
中国	44	15	15	8	4	2			
日本	18	1			1	3	5	5	3
韓国	6	4		1	1				
台湾	2					2			
タイ	3	2			1				
インド	2	1			1				
アフガニスタン	1	1							
イラン	1	1							
カザフスタン	1	1							
カンボジア	1	1							
バングラデシュ	1	1							
ビルマ	1	1							
ラオス	1	1							
合計	82	30	15	9	8	7	5	5	3

(注8) BXAI 2105 サマー・プログラム 参加大学と参加者区分

	参加者数	奨学生	バディ	A Y C *	日本人
浙江大学	30	15	15		1
京都大学	15	15			
香港科学技術大学	9	9			
一橋大学	8	7	1		1
早稲田大学	7	4	3		3
北京大学	5			5	
上海交通大学	5			3	3
精華大学	3			3	3
合計	82	50	19	13	18

\*AYC：アジア青年センター

(注9) サマー・プログラムの学術セッションの7つのテーマ：

- 1) 全世界的社会問題について—天災、公害、汚染、伝染病、医療、高齢化社会—産業、経済、環境と関連して
- 2) 日本社会と中国社会の宗教的信仰と倫理的哲学の役割：中国と日本へのシルクロード仏教のインポート；・中国人と日本人の間の思考モードの違い、・朱熹の荻生徂徠の批判のケーススタディ、・東アジアにおける仏教と儒教
- 3) 東アジア社会における女性の役割；・「女性は天下の半分を支えている」—現代中国における女性の役割
- ・日本女性の社会、経済、健康：マイクロベースのデータに基づくいくつかの経験的論証、

- ・東アジアにおける女性の役割
- 4) 高齢化社会の若者への影響
- 5) 中国と日本の政治制度の比較
- 6) 人的資源の移動—国境を越えた労働市場；・原子力のシルクロード—原子力発電技術のためのジョイント・パートナーシップ、・アジアにおける日本の駐在員の開発と評価
- 7) 東アジア共同体の可能性？；・よりよい中日関係構築のための歴史的教訓、・アジアとグローバル・ロールに関する中国と日本の展望や願望の展開

(注10) マイクロソフトを30半ばで退社。その後世界中の貧困国の学生に教科書を送る事業を行っているNPO活動家



ギャラ・ディナーで奨学生がサマースクールで獲得した成果を発表（太極拳、歌他）



曹其鏞氏（中央）と（左端が筆者）

## サマー・プログラム開会式挨拶

曹 基鏞

Students and distinguished guests,

I am very envious of the students who are here today to attend the first Bai Xian Summer Program. I believe the next three weeks could very possibly be a truly memorable period in your lives.

Almost 60 years ago when I was still a third year student at the University of Tokyo, I was fortunate enough to have the opportunity to participate in a tour to Hokkaido organized by a non-government organization. During the three-week tour, students from various countries spent every day together from morning till night. The things we did and experienced in this short period became lifetime memories, and the friendships that were formed were deep and valuable.

The Bai Xian Asian Future Leaders Scholarship Program is a fledgling project. We aim to provide for the young scholars of Asia a solid platform for them to deepen their mutual understanding, which in turn will contribute towards the healthy development and stability in the region. Diligent work towards academic and research achievements is, of course, important. However, we all believe that in this increasingly globalized and information-driven world, interaction, understanding, friendship and human connections built through non-academic activities is equally important and can have very positive effects on our lives.

Although this summer program only lasts 3 weeks, with support from many parties, the Bai Xian team and Zhejiang University have spent the past 6 months dedicated to designing and delivering a good product so that each of you can walk away with a rich and meaningful experience. This is the first time we have organized such a program. We hope you will forgive us for any imperfections and be generous with your comments and feedback.

Last but not least, on behalf of the entire Bai Xian team, I would like to express my gratitude to all of you, and wish this Summer Camp every success!

Thank you.

Ronald K.Y.CHAO

Honorary Chairman Bai Xian Asia Institute

奨学生並びにご来賓の皆様、

私は今日ここにいらっしゃる百賢アジア研究院の第1回目のサマープログラムにご参加された奨学生の皆様を大変うらやましく思っています。私はこれからの3週間があなた方の人生の中で、ことによっては真に記憶に残る期間になるのではないかと思っています。

私がまだ東京大学の3年生だった時、およそ60年前になります。私は幸運にも非政府機関（\*）が組織した北海道旅行に参加する機会に恵まれました。この3週間の旅行期間中、共に参加した各国からの留学生、日本人学生が朝から晩まで毎日一緒に過ごしました。

参加者はこの短い期間に経験したことが生涯の思い出となり、そしてここで培われた友情は篤く、かつ貴重な関係が構築できました。

百賢アジア研究院の「アジア次世代指導者奨学金プログラム」は、生まれたばかりのプロジェクトです。

私たちは、今度はアジアの若い学生がこの地域の健全な発展と安定に貢献するよう相互理解を深める強固なプラットフォームを提供することをめざしています。

学術、研究の成果に向けた勤勉な仕事はもちろん重要です。

しかしながら、私たち関係者は皆、現在のグローバル化、情報化の世の中においてますます学術活動以外の活動を通じて構築される相互作用、相互理解、友情、人の繋がり等が、同様に重要であり、私たちの生活にプラスの影響をもたらすことができるものと、信じています。

とはいえ、わずか3週間のこのサマープログラムですが、様々な関係者のご協力を得て百賢アジア研究院のチームと浙江大学は、あなた方がここで豊かな意義深い経験をして、それぞれが歩みを始めるよう、よりよい内容のものを準備するため6か月を費やしてきました。私たちは、このようなプログラムを準備するのは初めてです。不完全な点につきましてはあなた方のお許しをいただき、またあなた方の寛大なコメントとフィードバックを願っています。

最後になりますが、百賢チーム全員に代わってあなた方に感謝の意を表し、そして、皆さんにとってこのサマーキャンプが成功することを願っています。

ありがとうございました。

曹其鏞

百賢アジア研究院 名誉会長

（\*）北海道見学旅行は、東京大学に学ぶ日本学生とアジア諸国の留学生が相図り東京大学生を中心に北海道旅行を企画。北海道の雄大な自然の中で各回約3週間、20名以上の学生が共に過ごし、特色のある各種産業の実態に触れ、先輩からご指導を受ける一方、日本語のハンディーや文化・生活環境の差異を乗り越え、日本の真の姿に接し、多くの人と出会い話し合う機会を持ち、かつ、参加した学生間の相互理解と篤い友情を培、ひいては将来に亘る学術、文化、経済等の交流、永久に変わる事のないアジアの友好関係の確立に寄与することを目指し、1958年から隔年ごとに1966年までの5回実施された。実施母体となった北海道見学旅行実行委員会は、東京大学アジア学生友好会、東京大学教養学部アジア学生友の会、東京大学工学部丁友会から成り、アジア学生友好会は、（財）アジア学生文化協会の母体となった新星学寮に発足したものであり、アジア学生文化協会の活動の中心的活動に繋がって行った。

曹其鏞さんは1960年7月に実施された第2回北海道見学旅行に参加。1960年に竣工したアジア・アフリカ・ラテンアメリカ各地の留学生の共同生活寮である『アジア文化会館』に1962年まで在館する。

# 大切なのは自分の責任で進むこと

黄 国隆 (Mr. Ng Kok Long) ~マレーシア

東京大学大学院 マテリアル工学専攻 (修士 1年)

## 部活動で学んだこと

日本に留学してまず難しいと思ったのは日本人との付き合い方でした。

僕は京都大学(京大)に入学してアーチェリー部に入っていたのですが、上下関係に対する考え方がよくわからなかったんです。体育会系クラブは特別そうだったことに厳しいですから、入った時にはびっくりしました。マレーシアでは先輩後輩という概念自体がありませんから、そのニュアンスがわからなかったんです。僕的には学生は1年生でも4年生でもみな学生であって、そこには差別がないんです。先生はもちろん尊敬すべき相手ですから敬語を使って当然だと思います

が、同じ学生同士なら学年が上の人に対しても敬語は必要ないと思っていたんですね。ですから4年生の先輩にも普通に話しかけ2年生の先輩に



怒られて、「どうして？」みたいなことがよくありました。

アーチェリー部に入ったの

は、体育会系クラブの中では参加条件がかなり緩かったからです。「活動は週1回ですよ」といった感じで募集をしていたんです。ところがそれは嘘で(笑)、みんなほとんど毎日練習に行くんです。僕も結局毎日行っていましたね。決められている週1の活動日というのは土曜日なのですが、翌日の日曜日にはほとんど試合があるので週末はつぶれる。平日は授業が終わったらすぐ部活に行かないといけない。そういう生活は留学生としてはショックでした(笑)。「部活なのに皆真剣やなあ〜」と(笑)。僕はもうちょっと、みんなでワイワイと楽しむ、その中に入って友達を作りたいといった気持ちでしたから。

ですから友達と旅行をしたりどこかに遊びに行くという

ことはめったに出来ませんでした。それと、部活はお金がかかります。年2回の合宿に道具の購入等々、相当な金額が要るんです。それでお金がなくなるんですね。その上アルバイトもできない。ですから金銭管理はけっこう大変でしたね。

ただし、部活をやって良かったことはたくさんあります。まず、日本の社会のシステムがどのように動いているのかを学ぶことができたことです。クラブは一つの組織であり、その構造やそこでの人付き合いを知ることは日本で生活して行くためにすごく大事なものです。

もう一つ良かったのは普通では得られない仲間ができたことです。長い年月一緒にがんばって、みんなとはすごく仲が良くなります。間違いなく普通の留学生より仲の良い日本人の友達が多いですね。

そしてそれに伴って日本語を使うチャンスも圧倒的に増えます。日本語学校で勉強した日本語と実際に使う日本語は全然違うので、その使い分けが最初は分かりませんでした。先輩に対して敬語を使い始めると同級生に対しても同じように敬語を使ってしまっ

て、たぶん1年生の時は変なヤツだと思われていたと思います(笑)。「僕」とか「俺」とか、単語自体は知っていたのですが、使い分けができていなかったんです。それが1年経つと周りのみんなの日本語を聞いて、実際どう使えばいいのかがわかってくる。それはとても大きな勉強でした。

ですから留学生が部活動に入ることにはたくさんのメリットとデメリットがあります。後輩に勧めると言われれば勧めますが、なかなかの根性がいりますね。入るのは簡単ですけど、続けるのは難しい。ワイワイ楽しい時もありますが、そうでない時の方が多い。そういう最初の心の準備さえしておけば大丈夫。ただこればかりは自分で経験してみないとわからない。いくら言ってもわからないと思います(笑)。

#### 今の研究について

材料分野にはプラスチックなどの高分子材料、セラミックス、金属があり、これらを一般に三大材料と呼んでいます。僕の専門はこのうち金属の分野で、学部の時はその金

属がいつ壊れるのかを予測するという研究を行っていました。

今、修士課程では鉄の中の一種類である鑄鉄について研究しています。例えば鑄物なら鉄板ではできないような、すごく複雑な形のものを作ることができますが、その鑄物の性質をコントロールするために、溶鉄の中に何か別の材料を混入させ、それによってどんな反応が起こるかを見られます。混入させる材料によって様々な、例えばよりコストバランスに優れた性能の良い鑄鉄を作ることができるかもしれない。そういった研究をしています。

なぜこういう勉強を始めたのかというと、実はもともとやりたかったのはリサイクルなんです。今やっている研究は最終的には鉄のリサイクルに貢献できるのではないかと考えています。

日本は今、年間1億トンの鉄鋼を作っていて、3千万トンの鉄がリサイクルされています。鉄というのは、最初の鉄鉱石から良い鉄を作って製品になりますが、リサイクルされる時には元の製品にはなれません。リサイクルされる毎にその質は落ちていきま



大阪城にて。3月の卒業式に来てくれた両親と



講師をするイングリッシュスクールの子供たちとプレゼント交換を行い、楽しいクリスマスを過ごしました

す。なぜかという途中で不純物が大量に入ってしまうからです。木から作った紙が最終的にはトイレトーパーになってしまうのと同じですね。リサイクルとは言っていますが、完全に円にはなっていません。どこか抜けているんです。だから僕はその抜けている部分を補完してそれを円にしたいと思っています。

今の研究室は60代の教授と30代の助教、そして学生は修士1年の僕と2年の先輩の二人だけ。全部で4人しかいません。教授には毎週進捗レポートを出しているのですが、実際に研究を手伝ってくれるのはほとんど助教で、その人は若くて常に情報をアップデートしているようなアイデアを持っている方です。そうした人が身近にいるという今の研究環境は、僕

にとってとても良い環境だと思っています。京大にいた時は、一人の助教が何人かの学生の研究を見ていたので、当然一人当たりの時間は少なくなりますよね。今は、質問があればすぐに聴けるし、学会などで海外に行くチャンスも格段に多くなります。

ですから教授に会うことは少ないのですがそれについての不満はありません。むしろうちの教授は顔が広く、僕を他の先生や会社に紹介してくれるなど別のチャンスを与えてくれる。いつも丁寧に僕のことを紹介してくださるといっことは嬉しいですね。

#### 日本の大学に対する提案

今、日本の大学の評価システムは試験一発ですというのが一般的だと思います。だ

からみんな試験前の2週間、バリバリ勉強して試験を受けてサヨウナラ、といった感じではないでしょうか(笑)。しかしそれだと試験の質問に対しては答えられるけど、それ以外ではできない。ほとんど試験のためにやっているから何も身に付かず、試験が終わると忘れてしまう。試験が終わったら、遊びやバイトや部活をして、また次の試験対策をして・・・ということをいつも繰り返しているんですね。

このシステムをちょっとだけ変えればいいと思うんです。試験はもちろん大事ですけど、それ以外のこと、例えば先生はもっとクラスで学生に質問をして考えさせるようにする。常に勉強している人だったらすぐに答えられるはずで



京丹後琴引浜の松林の間引き作業を行い、美しい海岸を塩害や強風から守るボランティア活動に参加



東京に来て、二子玉川にて初BBQ。そこで今のガールフレンドと知りあいました

また、試験にしてもほとんど過去問と同じだったりしますから、せめて毎年質問を変えるようにするとかですね(笑)。

ただ、日本の大学が強調したいところ、アピールポイントというのは“研究”なんじゃないかと思うんです。試験は勉強すれば何とかできますが、研究はそれだけではうまくいかない。大学の教授もそうです。授業はともかく研究はしっかりしている。それはすごく感じます。

### 学生への提言

まず日本の大学生は自分のための時間がありませんね。大学に入ると、部活にサークルにバイトに、毎日忙しいですね。もっとゆっくりのんびりしてもいいんじゃないかな

と思うんです。

例えば大学4年生になったと同時に就活がはじまります。早く決めるのはいいのですが、自分の為に将来を考える時間ももっと必要なんじゃないかなと思うんです。

回り道することで自分が本当にやりたいこと、本当に欲しいことがわかってくるかもしれない。新幹線は各駅停車より早く目的地に着けていいのですが、周りの景色をゆっくり眺めることが出来ない。各駅停車ならゆっくり景色を見て、必要なら途中で降りて考えることが出来る。僕は時間をかけてもいいから、じっくり考えたほうがいいと思います。

マレーシアでは高校を卒業して大学に進学する際、センター試験の結果を待つんですが、その期間が3か月間くら

いあるんです。その間にほとんどの人はバイトをしたり旅行をしたりしながら、自分が大学で何をやりたいかを考える。日本人ももうちょっと考える時間をとったほうがいいと思います。

留学生に対しては、いつも楽しくいることが大事だと言いたいですね。僕は何でも楽しんでやりたいという性格ですし、その方が周りの人も楽しめますよね。そして、何をやっても後悔はしないという気持ちで前に進んでいく。それが正しいかどうかは別にして、後悔をしていたら前に進めません。例えば火を触っても構わない。でも火に触れば結果として火傷をします。そういったことを考え納得した上で、自分の責任で進んでいく。それが大切なんだと思います。

だから日本に留学しました！

## カセムウィロートスックジャイ パンパポン (ムック) さん

คุณ พรพรรณปพร เกษมวิโรจน์สุขใจ (MUK)

～タイ出身 ABK 学館日本語学校 (ABK カレッジ) 在籍

——最近のタイの方の日本に対するイメージを教えてください。

日本といったら観光に料理、買い物、化粧品、ファッションというイメージがまず強く湧くと思います。

例えば日本の観光地と言えば、以前は東京、大阪、北海道でしたが、今のタイ人は日本全国に行きたいと考えています。ですからみな全国どこでも行ける JR パスを買って北海道から九州まで行く人もたくさんいます。日本旅行は今タイで大人気なんです。

日本は景色がきれいなだけでなく、料理は有名店でなくても美味しいし、日本のものはハイクオリティーですよ。それに日本人は親切ですから。

——日本語に興味を持ったきっかけを教えてください。

中学生の時に「S cawaii! (エスカワイイ)」という日本の女の子向けファッション雑誌のタイ語版がタイで販売されることになって、宣伝のため日本語版を無料で配っていたんですね。それを見て、「へえ～、日本人の女の子はこんなにかわいいんだあ」と思ったんです。メイクとかファッションとかもかわいくて、読んだ後、日本にすごく興味を持ちまし



た。それにひらがなもかわいいから、自分で「あいうえお・・・」を練習し始めたんです。

——高校時代はどのように日本と接していましたか。

私が通っていた高校には、日本文化クラブというのがあって、そこに入っていました。日本のことについて、例えば日本の学生はどんな風に過ごしているか、どんな制服を着て、どんなふうに靴下を履いているとか(笑)。そんな細かいことまで学びました。もちろん

着物・浴衣体験をしたり七夕の時は短冊に願い事も書きました。

高校三年生の時にはJENESYS交流プログラムに参加して、東京と広島に来ることも出来ました。これは日本文化体験のプログラムで、ホームステイをしてホストファミリーと一緒に過ごしたり、日本の高校に1週間入って日本人と一緒に勉強したりしました。とても思い出に残る経験でした。



荒川区の花火大会をクラスの仲間と見物

—— 初めての日本の印象はどうでしたか。

まず教科書の日本語と実際日本人が会話で使っている日本語が違うということに驚きました。それで、もっと普通に喋れるように、もっともっと勉強したいなと思ったんです。

他に印象に残ったのは日本人のお母さんは強くて何でもできるということ。例えばタイ人のお母さんはあまり料理は作りませんね。タイは安くて美味しい料理が外でいくらでも売っていますから、だいたい買ってきて食べます。日本人のお母さんはお弁当でも細かいところまでちゃんと作る。それが凄いなあと思いました。私も作ってもらったのですが、全体が熊の形にデザインしてあったり、ソーセージもうさぎの形に切ってあったり、本当に感心しました。それは日本に来ないとわからないことですね。

—— 本格的に日本語を学んだのは大学に入ってからですか。

そうです。私は国立のタマサート大学と私立の泰日工業大学（TNI）の二つに合格しま

した。周りの人はほとんど国立大学に行くことを勧めたのですが、私は日本語だけではなく経営も勉強したかった。その点ををよく考えて結局 TNI を選びました。

—— 今回長期留学をしようと思ったのはどうしてですか。

大学時代もいくつかの交流プログラムに参加して日本に来ましたが、すべて一か月ほどの短期間でしたから、大学卒業後1年間勉強できればもっと日本語が上手になるのではないかと思ったんです。そしてできれば日本で仕事がしたい、就職活動をしてみたいと思いました。

—— ABK カレッジの良いところはどんなところでしょう。

とにかく先生が親身ですね。わからないところがあつたらいつでも先生に何でも聞けますし説明もわかりやすい。そういう安心感があります。それに課外研修も他の日本語学校より多くて、いろいろな所に出かけられます。山手線も近くて、放課後どこに行くにも便利



アルバイトをするツーリストインフォメーションセンターで

で、本当に良い学校だと思います。ただし、学校の図書室にファッション雑誌が無かったのはとても残念でした！（笑）。

—— 就職活動はいかがでしたか？

お陰様で希望した会社の内定をいただくことができました。エントリーシートや履歴書などを書くのはとても難しかったので、いつも先生に相談していました。面接の時も何を話したらいいか事前に先生とよく相談して、それはとても参考になり、良い結果に繋がりました。

—— 日本に暮らしていて大変だと思うことはありますか。

アルバイトに関することが大きいですね。アルバイトをして初めて日本人と仕事をしたのですが、いつも挨拶をしないといけない感じでそこはまだ慣れません。「よろしくお願いします」と1日に何回も言ってますよね（笑）。私の仕事はオフィスワークなので、メールを書く時も「いつもお世話になっております」「お疲れさまです」・・・と、付けなければいけない挨拶が多い。なんでこういうこと

を言わなければいけないんだろうと思うことがよくあります（笑）。

大学時代にタイの会社で研修をしたことがあるのですが、タイの会社の場合は日本とオフィスの中の雰囲気がとても違います。タイ人は日本人のように1日中パソコンとにらめっこしていることはありません。みんな仕事と関係のないお喋りをよくしてます。ですから、日本で仕事をしているとちょっとストレスが溜まりますね。

あと満員の電車通勤も大変です。だから東京にいるといつも忙しく感じます。逆に言うと時間の大切さを感じるんです。

—— アルバイトは日本の社会を知るための良い経験になりますね。

もしアルバイトをしないと、学校が終わって午後何をしますか？ すごく長い時間、母国語で友達と話していたらもったいないと思うんです。日本文化を知り日本語を練習する機会もないし、経験も持てない。

アルバイトをすれば日本語も使う、日本の組織のシステムがどうなっているか、自分でお金を稼ぐということがどういうことか、学ぶことが出来る。それは大切だと思います。

—— 日本に住んでみてわかったタイの良いところはなんでしょう。

タイは何もかもがゆっくり流れていてそこに心地良さがあると思います。日本でも東京に比べて地方はゆっくりしていますが、タイは都会のバンコクでもゆっくりした雰囲気を持っています。それにいろんなことが日本に比べて厳しくない（笑）。物価が安いのも生活には大きいですね。日本に来て最初は何か



教室にて、クラスメートと

買う時にそれが何パーツになるか計算していましたが、今はもうしていません。それをしてしまうと買う気がなくなってしまいますから(笑)。

—— 日本に留学するに当たってアドバイスはありますか。

留学する前に自分の進路を決めておくということですね。留学するのは、お金もかかるし時間もかかるし、もし自分が何をしたいのかわかっていなかったら、全てが遅くなってしまいますね。私は日本で仕事がしたい、就職がしたい、そう決めていましたから5月から準備を始めて8月には就職活動をして、今結果も出ました。今までは自分が思い描いた通りに来ていると思っています。

でも私の友達の中にはカレッジを卒業してから何をやりたいのか今もまだ考えていない人がいます。ただ、日本語が上手になりたい。でもその後何をやるのかまだわからないって。「あれ? もうすぐ卒業だよって」言いたいですね。

それから、タイ人にとって留学というのはちょっと怖いものなのだと思います。両親はもちろん知り合いもないし、困ったことがあったらどうすればいいかわからない。それはとても不安だと思います。でも来てみないとわからないことはたくさんあります。だから留学してみたいと少しでも思うのなら、来てほしいと言いたいですね。思っているだけで時間が過ぎていくのはとてももったいない。私

の大学の友達でも大学を卒業してから、仕事もせず、ずっと考えているだけで何も進んでいない人がいます。留学したいけど、怖くてできないんです。

実際私が日本でうまくいっているのを見て、これから日本に来る同級生が3~4人いますが、もし私と同じ時に来ていたら、この1年間いろんなことを経験できた。だからまず目標を早く決めて、それが決まったら勇気を持って前に踏み出して欲しいと思います。時間は取り戻すことが出来ませんから。

—— これからの予定を教えてください。

私はアルミニウムメーカーに内定が決まったのですが、この会社は来年タイに工場を作る予定があるんです。私は日本で3年働くとタイに転勤できることになっているので、日本の職場でたくさんのことを学んで、数年後にはタイに戻って活躍するつもりです。やはり家族のそばにいたいからです。

—— ありがとうございました。

バンコクの泰日工業大学で活躍するスタッフ&先生によるリレーエッセイ

# 泰日工業大学 (TNI) 奮闘記

## ⑬ 体験学習の大切さ

中山貴子

泰日工業大学 (TNI) の前期は、6月から始まり、新入生もいろいろな行事に参加します。

7月18日にバンコクの日本人学校、中学2年生との交流会が行われました。TNIで100名ほどの学生を募り、中学生と一緒にムアンポーランというテーマパークを班で回り、コミュニケーションを図るというものです。

今年は私が日本語を教えている1年生の参加が多く、私も TNI 側の引率者の一人として打ち合わせから関わりました。参

加する学生は当日に先立ち、説明会と2回のオリエンテーションに参加し、注意点やコースの提案、さらにガイドの内容を記入するという宿題も出さなければなりません。しかし、当日、短時間での自転車に乗りながらの見学なので思ったより交流はできず、昼食後の交流タイムでも思うように日本語が通じなかった学生も見受けられました。時間はあっという間に過ぎ、中学生が退出した後、皆、口々に「中学生、かわいい。楽しかった。」としんみりしていました。

参加者の中には授業態度が悪い学生もいましたが、明らかにその後、変化がみられました。授業中いつも一番後ろに座り、前に来るように促しても首を横にふっていた学生が、一番前で熱心に授業を受けるようになったのです。正直驚きました。これをやる気スイッチが入ったのでしょうか。

8月7日には TNI Day という行事があり、模擬店を出したり、カラオケなど、ステージに出演したりします。私も七夕を担当しました。書道体験できる教室で、学生に願い事をペンで短冊に書いてもらい、





▲日本人中学生との交流行事の様子

笹に結びつけるというものです。

予想以上に学生が、一生懸命日本語で願い事を書いてくれました。書き方などを真剣に聞くようすは授業のときに見せる姿とは違って、これも新たな発見と感動でした。

教師が教室内でできることは限られています。しかし、このような行事の体験がきっかけになったり、刺激になったりして上達につながるものだと再確認しました。外国での日本語学習は、留学生とは違い、実体験が少ないです。体験学習はそこを補うだけでなく、教師にとっても学べることが多いと気がつきました。

今後も学生がコミュニケーションの達人になれるよう、努力していきたいと思っています。



▲ TNI Dayの様子

**中山貴子 (Ms.TAKAKO NAKAYAMA)**

TNI 発足後に日本語教員として参加。その後一時、日本に帰国するが、2015年から再度 TNI に赴任。現在家族を日本に残して、TNI で奮闘中

*ABK is My Home*

## 関連イベント&懐かしの来館者



★ 8月28日、タイの Prayoon Shiwattana 氏（右から2人目）（タイ王国国家計量標準機関（NIMT:National Institute of Metrology(Thailand)）所長、元泰日工業大学理事、元タイ国法人泰日経済技術振興協会会長他）が来館。ABK 学館の設立時のタイ国でのご寄付に当たっては大変御尽力いただきましたが、学校は今回が初めての訪問です。

★9月7日に来館した元ABK在館性と日本語生のインドネシアのアマリアさんのお姉さん(左から3人目)、弟さん(右から4人目; 明治大学大学院卒)と、従弟(右から5人目)と共にABK日本語コース卒業が、ご親族一行7名で休暇を利用して日本旅行、帰国前日にABKに立ち寄っていただきました。弟さんと従弟は共に帰国後、インドネシアのパイロット養成学校に入り、現在はパイロットとして活躍しているとのこと。旧知の会館職員と記念写真。



★2015年9月5日(土) 荒川遊園運動場にて荒川区盆踊り大会が行われました。ABKからは14名の学生が浴衣を着て参加し、荒川区の着付け教室にはやまぶき寮の学生7名が参加しました。学生達は地域の方々のまねをしながら踊り続け、盆踊りがすっかり上手になっていました。また和太鼓をたたく体験もできました。

留学生が紹介する母国のレシピ

# 留学生キッチン

## ④ 帆立と春雨の中華風蒸し 花巻添え (中国料理)

講師：明慧 (Ming Hui) さん



### ★材料 (4人分)

- ①はるさめ一袋 ②帆立く8~12個>
- ③肉まん(花巻) ④長ねぎ(一束) ⑤ニンニク(3個) ⑥醤油<大さじ6> ⑦塩コショウ<大さじ1> ⑧サラダ油<適量>

※ 中国では肉まんではなく肉の入っていない饅頭＝花巻を使用します。花巻が手に入る場合はそちらをご使用ください。



(1) 春雨をやわらかくするため  
水に浸しておきます



(2) ニンニクの皮を剥きます。少し  
潰すと剥きやすくなります



(3) ニンニクの芽の部分を切り取ります



(4) ニンニクを細かく切ります





(5) 帆立の黒い部分(うろ)を取り除きます



(6) うろを取り除いたら水で洗います



(7) ネギをみじん切りにします



(8) 水に浸けておいた春雨をよく水を切り皿に盛ります



(9) 春雨の上に帆立のをせます



(10) 刻んで置いたニンニクを油で炒めます。(焦げない程度に。30-40秒)



(11) 炒めたニンニクを帆立の上にふりかけます



(12) 春雨が適度に浸る位(7割程) 醤油をかけます



(13) (12)の皿の上に花巻を乗せて蒸器に入れます  
\*蒸器の代わりにフライパンを利用することもできます



(14) 15分ほど強火で蒸します  
(お湯が沸騰してから15分蒸します)



(15) 蒸し終わったら花巻をいったんどかし、春雨と醤油をよくなじませます



(16) ネギをふりかけます



(18) 花巻を乗せ直して、出来上がり!

お疲れさまでした！  
温かいうちにお召し  
上げください



醤油の量が少ないと味が薄くなりますので、要注意。また、ホタテの貝殻をお皿の替わりに使うと、より本格的な出来上がりになりますよ

明 慧 (Mr.Ming Hui)

東京芸術大学美術研究科文化財保存学保存修復・日本画専攻

## 留学生関連ニュース!

### 外国人在留資格を8年に延長

政府の経済財政諮問会議の民間議員は9月9日、10月に発足する改造内閣で取り組む新たな経済政策の素案をまとめた。外国人の在留資格に示す滞在期間を最長8年に延長し、高い技術や経営能力を持つ人材を確保する。

企業の生産性を上げる柱のひとつは、外国人の高度人材の活用だとして海外企業の本社から日本にある支店への転勤や、IT（情報技術）など専門分野で高度な技術を持つ外国人の滞在期間を延長する。実現には入国管理法の改正が必要で、来年の通常国会での法改正を視野に入れる。

政府は2012年に外国人の在留資格を最長3年から最長5年に延長しており、これを最長8年に再延長する。在留資格の更新手続きの頻度が少なくなるなど、国内で働きやすくなる。民間議員は日本の大学などで学んだ留学生にインターンを勧め、国内企業への就職率を現状の2割から5割に高めることも提言。国内企業が人手不足に苦しむ現状を踏まえ、これまで以上のペースで増加を目指す。（日本経済新聞より抜粋）

### 日本で就職する外国人留学生が増加中

大学・大学院などを卒業後、国内の企業に就職するため、在留資格「留学」から「就労」への変更を許可された外国人留学生は、2014年で1万2958人と前年より1割以上も増えている。国・地域別に見ると、中国・韓国・ベトナム・台湾・ネパール・タイなどの順で、アジア諸国からの留学生が93.9%に上っている。

日本で就職する外国人留学生の就職先企業を資本金別に見ると、「資本金10億円以上」の企業に就職した外国人留学生が18.8%と1位だったが、次いで「資本金500万～1000万円以下」が18.7%、「資本金500万円以下」が17.1%など、資本金の少ない企業に就職する外国人留学生の割合が増えている。また外国人留学生を採用する中小企業も増えている。就職先の仕事内容は、外国語能力などを生かした「翻訳・通訳」が24.6%でトップだが、「販売・営業」も24.1%と年々増えている。

これまで外国人留学生は、大企業や製造業を中心に「翻訳・通訳」「情報処理」「技術開発」など専門的な分野で採用されるケースが主流だった。それが経済のグローバル化の進展によって、徐々に非製造業や中小企業も外国人留学生を採用するようになっただけでなく、「販売・営業」など日本人と同じ仕事をするようになりつつある。（ベネッセ教育情報サイトより抜粋）

# Event & Festival

## 第42回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール

日本賞（にっぽんしょう、Japan Prize）は、教育番組・教養番組作品を世界各地の放送機関から募集し、その作品の内容や教育性を重視して審査する1965年にスタートしたNHK主催の国際番組コンテストです。50年目を迎える今年も、予選を通過した世界のすぐれた教育番組やデジタルメディアが一般の人々に紹介されます。ここ数年はアジア各国からの健闘が目立っています。

★会期 10月15日（木）～22日（木）

1. 受章候補番組の上映とディスカッション（一次審査通過作品と上映会）

10月19日（月）、20日（火）NHK放送センター（渋谷）

2. 発展途上国の制作者による企画の発表・審査（企画部門ファイナリストプレゼン本審査）

10月20日（火）9時～12時 NHK放送センター（渋谷）

いずれの作品も、開催期間中会場で、オンデマンドで個別視聴もできます。くわしくは下記ホームページ「イベント&カレンダー」でご確認下さい。

[http://www.nhk.or.jp/jp-prize/index\\_j.html](http://www.nhk.or.jp/jp-prize/index_j.html)

## 日本インドネシア市民友好フェスティバル

今年は、レストランが20店も出る！ グルメ祭だ！  
ステージも、土日の最後は一時間のミニコンサート！  
思いっきり楽しんでくださいね。

★開催日 10月17日（土）18日（日）

★会場 東京・代々木公園イベント広場（JR山手線 原宿駅より徒歩7分）

★主催 日本インドネシア市民友好フェスティバル実行委員会主催事務局 認定NPO法人C.P.I.教育文化交流推進委員会

★共催 インドネシア中央政府 Ministry of Cooperative SME's

★後援 駐日インドネシア大使館・日本国外務省・東京都

★問合せ先 [indonesiafestival2008@gmail.com](mailto:indonesiafestival2008@gmail.com)

<http://www.indonesia-festival.com>

ダブル大当たり抽選チャンス  
航空チケット/食事ペア券

日本インドネシア  
市民友好フェスティバル

2015年の開催は、代々木公園イベント広場で、  
10月17日(土)～18日(日)

会場：東京・代々木公園イベント広場（JR山手線 原宿駅から徒歩7分）  
主催：日本インドネシア市民友好フェスティバル実行委員会  
主催事務局：認定NPO法人C.P.I.教育文化交流推進委員会  
共催：インドネシア中央政府 Ministry of Cooperative SME's  
後援：駐日インドネシア大使館・日本国外務省・東京都

<http://www.indonesia-festival.com>  
問合せ先：[indonesiafestival2008@gmail.com](mailto:indonesiafestival2008@gmail.com)



## 奨学金情報

※ 奨学金情報は Japan Study Support のホームページよりご覧いただけます (<http://www.jpss.jp/ja/>)

### とうきゅう留学生奨学財団 奨学金

●対象：(1) 日本に勉強又は研究のため来た外国人留学生 (2) 財団が2か月に1度開催する交流活動に参加できる者 (3) 次の国籍を持つ者。大韓民国、中華人民共和国、モンゴル、

台湾、香港、マカオ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、ミャンマー、ブータン、ネパール、インド、バングラデシュ、スリランカ、モルディブ、パキスタン、アフガニスタン、ロシア連邦、アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、パプア・ニューギニア、太平洋上諸島・諸国（フィジー、トンガ等）

(4) 2016年4月に、日本の大学院に正規学生（研究生およびオーバードクターは含みません）として在籍している者、ただし次の年齢制限があります。修士課程（博士前期課程）：1986年4月1日以降出生の者。博士課程（博士後期課程）：1981年4月1日以降出生の者 (5) 2016年4月以降、他の

年額360,000円を超える奨学金 / 研究助成金を受けない者。(6) 日本語で研究計画等が説明できる者。（面接はすべて日本語で行います。）

●給付金額：月額18万円

●支給期間：2年以内

●採用人数：15名程度

●応募方法：実施団体に申し込む

●応募期間：10月1日（木）～10月30日（金）17時（必着）

●実施団体：公益財団法人 とうきゅう留学生奨学財団

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-16-14  
渋谷地下鉄ビル 5階

TEL：03-6418-3099

E-mail：info@tokyu-f.jp

URL：<http://www.tokyu-f.jp/index.html>

にほんこくさいきょういっくしえんきょうかいかんむりしょうがくきんじぎょう  
**■ 日本国際教育支援協会冠奨学金事業 しずぎんアジア留学生奨学金**

●**対象**：(1) 2015年4月現在で、静岡県内の大学（学部、修士課程、博士課程）に正規生として在籍する（予定含む）外国人留学生。静岡県内の大学とは、寄付者と協議の上選定した指定校制とする。なお、在留資格は「留学」であること。(2) アジア地域の国籍を有する者。特にタイ、ベトナム、インドネシア、インド、中国からの留学生を優先する。(3) 留学の目的及び計画が明確で、修学効果が期待できる者。(4) 本奨学金の支給期間中、他の奨学金（外国政府による奨学金、貸与型（返済が必要なもの）奨学金、学費免除、並びに一時金は除く）の支給を受ける予定のない者。(5) 大学の長の推薦を受けることができる者。(6) 日本語でのコミュ

ニケーションが可能なる者。

●**支給金額**：月額 10万円

●**支給期間**：2016年4月より2年間（ただし、大学における在籍期間中に限る。）

●**募集人数**：8名程度

●**応募方法**：大学を通じて申し込む

●**応募締切**：11月28日（金）必着

●**問合せ・応募先**：公益財団法人日本国際教育支援協会 事業部 国際交流課

〒153-8503 東京都目黒区駒場 4-5-29

TEL:03-5454-5274 FAX:03-5454-

5242 E-mail: ix@jees.or.jp

http://www.jees.or.jp/

ほんじょうこくさいしょうがくざいだん がいこくじんりゅうがくせいしょうがくきん  
**■ 本庄国際奨学金財団 外国人留学生奨学金**

●**対象**：(1) 日本国籍を持たない者。(2) 2016年4月以降に大学院に在籍している者。または入学を予定している者。(3) 博士課程在籍者は、1980年3月31日以降に生まれたもの、修士課程在籍者は1985年3月31日以降に生まれた者。(4) 大学院修了後、母国において勤務することを確約できる者。（応募時点で就職先が確定している必要はありません。また大学院修了後ただちに帰国しなければならないということではありませんが、将来母国において仕事をする意志を持つ者、という意味です。）(5) 国際親善や交流に理解を持ち、財団で行う行事や同窓生ネットワークに積極的に参加または協力できる者。(6) 日本語の日常会話ができ

る者。面接は日本語で行います。

●**支給金額**：以下の金額と期間のうち、最終目標とする学位取得までの最短年限にあたる期間を本人が選択できます。ただし、延長はできません。奨学金支給開始後の期間および金額の変更もできません。

①月額 20万円を 1年～2年間

②月額 18万円を 3年間

③月額 15万円を 4年～5年間

※ 在籍期間が残り1年未満の方は応募できません。

●**支給開始**：2016年4月以降

●**募集人数**：15～20名

●**応募方法**：主催団体に直接申し込む

●**応募締切**：10月31日（当日消印有効）  
 ●**主催者・問合せ先**：公益財団法人 本庄国際  
 奨学財団  
 〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷 1-14-9

TEL (03) 3468 - 2214  
 FAX (03) 3468 - 2606  
 HP <http://www.hisf.or.jp>  
 E-mail [info@hisf.or.jp](mailto:info@hisf.or.jp)

## ヤマハ発動機スポーツ振興財団 国際スポーツ奨学金

●**対象**：(1) 平成28年4月1日以降、日本国内の大学、大学院に留学している外国人大学生、大学院生 (2) 平成28年4月現在、日本の大学・大学院に在学している方、または平成28年4月以降(1年以内)に日本の大学・大学院に入学を予定している方(入学許可証等の証明書を提出のこと) (3) 大学・大学院でスポーツの普及・振興ならびに競技水準の向上にかかわる学問・研究をしている方 (4) 当財団の主催する、奨学金贈呈式・修了式、中間・成果報告会などへの参加、活動計画、四半期報告など期限を遵守し支障なく行える方

※ 他の奨学金との重複受給はできません。

●**支給金額**：月額10万円  
 ●**支給期間**：最長2年間  
 ●**募集人数**：15～20名  
 ●**応募方法**：主催団体に申し込む  
 ●**応募締切**：11月17日(火) 必着  
 ●**主催者・問合せ先**：公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500 コ  
 ミュニケーションプラザ内  
 TEL 0538-32-9827  
 HP <http://www.ymfs.jp/>

## イベント情報

### 「東京国立博物館 留学生の日」のご案内

日本で学ぶ外国人留学生の方々が、東京国立博物館の観覧を通して、日本の文化や伝統に触れ、我が国に対するいっそうの理解を深めていただくことを目的として、今年度も「留学生の日」を実施します。当日は、留学生の総合文化展観覧料が無料！あわせて、各種イベントも行われます。

イベントは英語ガイドを除き、留学生にもわかりやすい日本語で行います。

- 日程** 2015年10月10日(土)
- 時間** 9:30～17:00 (入館は閉館の30分前まで)
- 会場** 東京国立博物館 (JR 上野駅公園口、または鶯谷駅南口下車 徒歩10分)

●**料金** 日本の学校に所属する留学生、ALT（外国語指導助手）及び、その同行者は総合文化展（本館、東洋館）の観覧が無料となります。入館の際に学生証をご提示ください。

※「アート オブ ブルガリ 130年にわたるイタリアの美の至宝」は別途料金が必要

●**お問合せ** Tel. 03-5777-8600(ハローダイヤル)

**外国人のための無料専門家相談会**

日本に住む外国人のために、相談会を行っています。ビザ・在留資格、国際結婚・離婚、事故などの法律相談、資金、解雇などの労働についての相談、健康保険・失業保険・年金などの相談、教育や進学、物の相談、買い物や契約のトラブル、住まいの困りごと、その他の悩み相談に通訳ボランティアと専門家が対応します。

●**日時** 2015年10月4日(日) 12:30～15:30

●**会場** 国分寺労政会館 (JR中央線/西武国分寺線/西武多摩湖線 国分寺駅)

●**主催** 国分寺市国際協会 (Tel. 042-325-3661)

**MEMBERS**

〈会費とご寄附の報告〉

2015年6月

**正会員**

(1口)

酒井 杏郎	渋谷区
小木曾 建	世田谷区
工藤 幹雄	文京区
岩尾 明	日田市
竹嶋 栄子	松戸市
内山 敦之	中野区
中西 鶴子	名古屋市
森尾 正照	北杜市
橋本 イスラム ヌルー	坂戸市
広田 誠四郎	高崎市
木下 幹康/澄江	狛江市
鈴木 八重子	志木市
酒井 杏郎	渋谷区
LIM LIM CHY	江東区

山田 守一	港区南
山本 章治	横浜市
細川 哲士	八王子市
林 丕継	豊島区
吉原 エツ子	始良市
庄司 龍平	神戸市
対馬 節子	品川区
藪下 勝	千葉市
樋口 隆一	文京区
倉内 憲孝	池田市
竹田 肇/和子	中野区
浜崎 長寿/和子	堺市
水戸アカデミー	水戸市

**ご寄附**

張 忠信 世田谷区

2015年7月

**特別会員**

今西 淳子 文京区

**賛助会員**

村田弘司 近江八幡市  
昭和西川(株) 中央区

**正会員**

(1口)  
重野 幸子 白杵市  
竹林 惟允 練馬区  
豊島 正大 横浜市  
荒川 雄彦 北杜市  
大里 浩秋 逗子市

**ご寄附**

竹林 惟允 練馬区  
小木曾 大 調布市

皆様の暖かい御支援に感謝申し上げます

## ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

## 協会のあらまし

名 称：公益財団法人アジア学生文化協会  
ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION  
(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 小木曾 友

設 立：1957年(昭和32年)9月18日  
故穂積五一氏創設

目 的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済的交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

## ◇主な事業◇

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営(進学希望者向けの日本語を中心とする教育)
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

## ◇会費(年額)◇

正会員 1口 1万円  
賛助会員 1口 5万円  
特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円(十税)でお送りいたします。

当財団に対する寄附金は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、及び法人税の税制上の優遇措置があります。

2015年度より購読料に別途消費税をご負担いただくことになりました。何卒ご了承下さい。

おかげさまで、当財団は2014年4月1日に公益財団法人に移行しました。これまでご支援いただきました皆様には大変ご迷惑をおかけしておりましたが、これにより会費並びに寄附金は税制上の優遇措置の対象となります。今後とも、皆様のご支援の下、これまでと同様留学生宿舍の運営、留学生への情報提供、同窓会活動等の活動を通じ、アジアの青年の育成と友好親善のために微力を尽くす所存です。引き続き皆様のご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

## 後記

2011年3月11日の東日本大震災以降、頻発する地震で、当財団の学生寮も大切な留学生をお預かりしているため耐震診断の必要性に迫られてきた。そこで、より緊急性の高い新築学寮の耐震診断を行うことになり、7月に実施したが、50年以上の木造作りで手入れもあまり施されてこなかったこともあり、やはり耐震工事は必須との結果が出る。とりえず耐震工事だけ行っか、建直すか、どうするか等できるだけ早い時期に結論を出さねばならない。同時に、アジア文化会館も55歳を迎え、同様耐震診断を受けねばならぬが、耐震診断一つをとってもかなりの費用を必要とする。各種補助金等を探してみるが厳しい状況だ。留学生は日本にとっては大切な人材。長年留学生が安心して留学生生活を送れるよう留学生宿舍を運営する当方のような純民間団体に、ぜひとも耐震工事、建替え等の助成がいただけないかと思案するこの頃である。(F)

表紙の写真の香港の曹其鋪氏と右隣の早稲田大学の黒田一雄大学院教授・国際部長は、共にアジア文化会館の同窓生です。曹さんは1960～62年、黒田先生は1986～89年の在館生です。百賢アジア研究院の記念すべき第1回サマナー・プログラムでお二人の並ぶ場面が実現するとは思ってもよらぬ嬉しい出来事でした。(F)

## アジアの友 2015年8-9月号

2015年9月20日発行(通刊第516号)

年間購読(送料共)3,000円+税 1部 500円+税

発行人 小木曾 友  
編集 アジアの友編集部  
発行所 公益財団法人 アジア学生文化協会  
東京都文京区本駒込2-12-13 (☎113-8642)  
電話番号：03-3946-4121 ファクシミリ：03-3946-7599  
振替口座：00150-0-56754 E-mail: tomo@abk.or.jp  
ホームページ：(http://www.abk.or.jp/)

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION  
(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

☎+81-3-3946-4121 ☎+81-3-3946-7599

Email: tomo@abk.or.jp

Home Page: http://www.abk.or.jp/

会員並びにご購読のお申込みはメール・電話または巻末の振替用紙にてお願いいたします。

